



TITLE:

植民國トシテノ丁抹ノ末路

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 植民國トシテノ丁抹ノ末路. 經濟論叢 1917, 4(2): 306-310

ISSUE DATE:

1917-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127153>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號二第

卷四第

行發日一月二年六正大

論說

『一經濟學者ノ第一思想』ヲ讀ム……………	法學博士	河上肇
官業問題ニ就キテ(二)……………	法學博士	神戶正雄
體質廢頽問題(三)……………	法學博士	財部靜治
經濟心理學ノ組織的研究(二)……………		米田庄太郎
消費ニ關スル學說ノ發達(二)……………		瀧本誠一

時事問題

減債基金論……………	法學博士	小川郷太郎
日支經濟關係ノ真相……………	法學博士	戶田海市
關西商業會議所聯合經濟調查會事業概況……………	法學博士	神戶正雄

雜錄

經濟雜話(八)……………	法學博士	田島錦治
中世ニ於ケル賣買ノ擔保……………	文學博士	三浦周行
不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ答フ……………	法學博士	戶田海市
米ノ卸賣價格ト小賣價格……………	法學士	河田嗣郎
植民國トシテノ丁抹ノ末路……………		山本美越乃

植民國トシテノ丁抹ノ末路

山本美越乃

去ル十二月二十二日紐育發ノろいてる電報ハ突如トシテ『丁抹衙院ハ同國領西印度諸島ヲ亞米利加ニ賣却スベキ條約案ヲ可決シタリ』トノ旨ヲ報ズ、丁抹ノ植民國トシテノ地位ハ世界ノ植民國中ニ於テ僅カニ第十一位ヲ占ムルニ過ギズ、(露國ノ中央亞細亞及西伯利亞ヲ植民地トシテ計上スル時ハ世界ノ植民國ノ植民地ノ面積ヲ標準トセル順位ハ英・露・佛・獨・白・葡・蘭・米・伊・日・丁・西トナリ、然ラザル時ハ英・佛・獨・白・葡・蘭・米・伊・日・露・丁・西トナル)又其ノ賣却セラルベキ西印度諸島ハ面積百三十八方哩人口二萬七千人餘ニシテ、其ノ大部分ハ甘蔗ノ栽培ニ從事セル黑人ヨリ成レル一小地域ニ過ギザルガ故ニ、之ガ得喪ハ關係兩國ノ植民國トシテノ順位ニ變動ヲ及ボスガ如キ重大ナル問題ニ非ズ、從テ斯カ

ル觀點ヨリセバ今次ノ事件ハ殆ンド吾人ノ注意ヲ値スルニ足ラザルガ如シト雖ドモ、翻テ植民史上ニ於ケル丁抹ノ過去ヲ回想スル時ハ、多年ノ懸案タリシ西印度諸島ノ放棄ハ總テ植民國トシテノ丁抹ノ將來ヲトセシムルニ足ル一暗示タルガ如キ感アリ、請フ吾人ヲシテ少シク過去ニ於ケル丁抹ノ植民の活動ノ事蹟ヲ温テ其ノ將來ヲ推サシメヨ。

現今丁抹ノ植民の領土ヲ以テ目セラルベキモノハ Iceland (面積三九、七五六方哩 人口八五、一八八人) Greenland (面積四六、七四〇方哩 人口二三、五一七人) 及 West Indies (St. Croix, St. Thomas, and St. John) (面積一三八方哩 人口二七、〇八六人) ノ三ニシテ、あいすらんどの發見ハ遠ク第八世紀ノコトニ屬シ最初ハ島民自ラ共和政體ヲ樹立セシモ、一二六二年ニ至リテ諸威王ノ有ニ歸シ、次デ一三八〇年ニ諸威ノ丁抹ト合スルヤ茲ニ初メテ丁抹領トナリ以テ今日ニ及ベリ、島民ハ頗ル自由ヲ愛スルノ念ニ富ミ爲メニ屢々本國丁抹ト事ヲ構ヘシガ一八四三年久シク廢絶シタル立法議會(Althing)

ノ復活セラルルニ及ビ漸次平靜ニ歸スルニ至レリ、其ノ後一八七四年同九三年及一九〇三年ノ變更ヲ經テ現今ノ立法議會ハ四十名ノ議員ヨリ成リ、内三十四名ハ島民之ヲ選舉シ六名ハ丁抹王ノ選任ニ出ヅ、統治ノ主權ハ固ヨリ丁抹王之ヲ掌握シ、其ノ任命ニ係ルあいすらんど事務大臣ハ首都レーキヤビークニ駐在シテ專ラ行政ノ任ニ當リツツアルモ、立法議會ハ常ニ其ノ行動ヲ監視シ若シ失敗アル時ハ直接國王ニ對シテ上奏スルノ權ヲ有セリ。要スルニあいすらんど人ハ比較的進歩シタル文化ヲ有スルト共ニ最も自由ヲ愛シ、彼等ノ祖先ニ依リテ嘗テ一ト度實現セラレタル共和政體ノ再興ヲ以テ其ノ理想トナシツツアルガ故ニ、他ノ植民地トハ全ク異ナル特質ヲ有シ、從テ丁抹ニトリテハ常ニ警戒ヲ要スベキ地方タリ。

ぐりーんらんどモ亦第九世紀頃ニ北人ニ依リテ發見セラレ、爾來すかんでいなび人ノ一移住地タリシガ、第十五世紀ノ末年ニ及ビ島民間ニ於ケル鬭爭及氣候ノ劇變ハ終ニ其ノ移住ヲ阻

止シ、茲ニ全ク外界トノ交通ヲ杜絶スルニ至リシモ、一七二一年丁抹人再ビ此ノ地ニ航シテ氷雪ト戦ヒ各地ニ移住ヲ企テタル結果、多少昔日ノ狀態ヲ恢復スルコトヲ得タリ、然レドモ固ト是レ不毛ノ一荒土ニ過ギズシヲ特ニ注意スルニ足ルベキ富源ヲ有セザルガ故ニ丁抹ニトリテハ決シテ良好ナル植民地ト稱スルヲ得ズ、本島ノ統治ハ總督及特別委員直接之ニ當リ、又其ノ商業(主トシテ毛皮ノ賣買)ハ之ヲ政府ノ獨占トナセリ。

第十七世紀以前ニ於ケル丁抹ノ植民の活動ハ上述ノ如ク主トシテ北太平洋方面ニ限ラレタリト雖ドモ、同世紀ニ入リテハ更ニ東印度ニ其ノ驥足ヲ伸ベ一六一六年ニハ東印度會社ヲ組織シせいらん王ノ許可ヲ得テとらんけばーる (Tian quebar) ニ根據地ヲ置キ、東印度地方ハ固ヨリ支那方面ニ至ル迄商業植民のノ活動ヲ爲セシガ葡・蘭・英及英・佛等ノ間ニ於ケル植民地ノ紛爭ハ適々丁抹ノ活動ニ利便ヲ與ヘ、假令一時的ナリシトハ云ヘ其ノ勢力侮ル可カラザルモノア

リシコトハ、額面五百『ターレル』ノ東印度會社ノ株券ノ、和蘭・英吉利間ノ紛爭當時ニ於テハ一千九百『ターレル』ノ價格ヲ有スルニ至リタルヲ以テモ之ヲ推知スルコトヲ得ベシ、然ルニ平和ノ克服後ハ丁抹ハ是等ノ先進國ノ猛烈ナル競争ニ抗スルコト能ハズシテ次第ニ其ノ勢力ヲ失墜シ、遂ニ一八四三年東印度ニ於ケル植民地ヲ英國東印度會社ニ賣却スルト共ニ丁抹ノ東方策ハ茲ニ終焉ヲ告グルニ至レリ。

此ノ如ク第十七八世紀頃ニ於ケル丁抹ハ當時ノ有力ナル植民國タリシ西・葡・蘭・佛・英等ノ諸國ト伍シテ、或ハ北太平洋ニ或ハ東印度洋ニ勇敢ナル植民のノ活動ヲ爲シタルノミナラズ、更ニ西印度地方ニモ其ノ餘力ヲ伸ベ、一六七一年ニハ今次ノ賣却諸島中ノせんと、どーます島及せんと、じふん島 (米領ぼろどー、リニーン東ニ在リ) ヲ得テ之ヲ植民地トナシ、一七四三年ニハ之ガ統治ヲ西印度會社ニ一任シ、又一七三三年ニハ七萬五千磅ノ價格ヲ以テさんた、くるーず島 (ぼろどー、リニーン東南ニ在リ) ヲ佛國ヨリ買取シテ、

茲ニ丁領西印度諸島ノ基礎ヲ置クニ至レリ、然レドモ西印度會社ノ統治其ノ宜キヲ得ザリシヨリ是等ノ植民地ハ就レモ一時頗ル悲況ニ陥リシガ、該會社ノ解散後通商ノ絕對的自由ヲ認メシヨリ以來漸次勢力ヲ恢復シ、第十八世紀ノ末年西印度ニ於ケル各國植民地ノ一大危機ニ遭遇セル時代ニ於テモ、丁領西印度諸島ノミハ何等ノ影響ヲ受クルコトナクシテ止ミタリ然ルニ其ノ後丁・英間ノ紛争ニ際シ、是等ノ地方ハ一時英國艦隊ノ占領スル所トナリシガ、一八一五年ノ平和條約ニ據リテ再ビ丁抹領トナリ以テ現今ニ及ベリ。

丁領西印度諸島ノ賣却問題ハ多事ノ懸案ニシテ、既ニ前世紀ノ中葉即チ一八六七年ニ一ト度提議セラレ、當時せんと、どーます島（西印度諸島ノ通商貿易上極要ノ地點ヲ占メ優良ノ港灣ヲ有セリ）及せんと、じょん島ヲ七百五十萬弗ヲ以テ合衆國ニ賣收セントスルノ議アリシモ終ニ成效セズシテ止ミ、更ニ米西戰爭當時及今世紀ニ入りテモ一九〇二年ニ再ビ買收問題ヲ生ゼシモ丁抹議會ハ之

ニ承諾ヲ與ヘザリシガ、今回漸ク多年ノ冀望ヲ達シ合衆國ハ久シカラズシテ是等ノ地方ヲ領有スルヲ得ルニ至レルモノノ如シ、該地方ハ甘蔗ノ栽培ヲ以テ主業トナスモ面積比較的小ナルガ故ニ其ノ經濟的價值ハ左迄大ナルモノニ非ズ、最近即チ一九一四年度ニ於ケル本國丁抹トノ貿易總額ハ輸出四千〇五十磅餘輸入三萬二千二百磅餘ニシテ近年殊ニ減少ノ傾向アリ。

若シ夫レ丁領西印度諸島ニ就キテ植民史上ニ於テ特ニ注意ス可キモノアリトセバ、ソハ他國ニ率先シテ奴隸問題ヲ解決シタルノ一事是レナリ、即チ一七九二年三月十六日丁抹王ハ領内ニ令シテ奴隸ノ賣買ハ一八〇二年十二月三十一日限り之ヲ禁止スベキコトヲ命ジ、次デ一八四八年ニハ奴隸ノ制度ヲ全廢セシガ、せんと、どーます島及其ノ他ノ諸島ニ於テハ之ガ爲メニ直接打撃ヲ受ケタルコト渺ナカラザリシト雖ドモ、然カモ何等ノ障礙ヲ見ズシテ圓滿ニ解決ヲ告グルヲ得タリ、西印度ニ於テ初メテ奴隸ヲ解放シタル名譽ハ英國之ヲ負ヘリト雖ドモ（一八三三年乃至

四年ニ亘リぐれー蘭國ノ當時ニ之ヲ斷行セリ、之ヨリ先キ既ニ奴隸賣買ヲ禁止シテ其ノ解放ニ道ヲ備ヘタルモノハ丁領西印度諸島ナリシコトハ植民史上ニ於テ注意ス可キ一事蹟ナリトス。

要之、近世ノ初メニ於テハ西・葡・蘭・佛・英等ノ諸國ト相駢馳シテ洋ノ東西ニ植民的ノ活動ヲ爲シタル丁抹モ、前世紀ノ中葉以後次第ニ其ノ影ヲ没シ、僅カニあいすらんど、ぐりーんらんど及西印度諸島ニ其ノ餘影ヲ留メタルモ、あいすらんどハ前述ノ如ク其ノ住民比較的進歩シタル文化ノ形式ヲ有シ、多年本國ニ抗シテ廣大ナル自治權ヲ得、從テ本國ニ對スル關係ハ今ヤ漸ク疎ナラントシ、ぐりーんらんどハ土地不毛ニシテ將來ト雖ドモ多ク期望ヲ屬スルニ足ラズ、而シテ僅カニ殘存セル西印度諸島ハ近ク米領ニ合セラレントシツツアルコトヲ思フ時ハ、吾人ハ植民國トシテノ丁抹ノ將來ニ對シテ一種ノ用鐘ヲ聞クガ如キ感ナクンバアラザルナリ。